

<p>令和元年度 重点目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. しるし検定とタブレットを活用し、授業改善と家庭学習の定着をはかる。 2. 小集団を活用した授業の創造。そこから子どもたちの自主性を育てる。 3. 2019浜中スローガン『は・ま・で・ら』を向上させる。

<p>「確かな学び」の現状 学習内容を定着させるために必要な家庭学習の状況は過去3年改善傾向はみられるが、以前堺市平均を下回っており、平日に家で勉強する時間の調査で、「まったくしない」生徒の割合は堺市平均より多い。学習内容の定着のためにも、普段から自分で復習をする習慣を身につけていく必要がある。 関心・意欲・態度、学びに向かう力、自己成長力が高く、学習への意欲が感じられる。また、社会参画力や、豊かな心も同様に高い位置にあり、社会に出ていくための力をつけている。しかし、知識・理解、技能、思考・判断・表現の力が低く、しっかりと学習を続ける必要がある。</p>	<p>「豊かな心・健やかな体」の現状 (豊かな心) 平成30年度の全国学力・学習状況調査質問紙調査における「自分には良いところがある」の肯定的回答率は、府平均を10%以上上回り86%。平成28年度からは10%、平成29年度からは20%改善した。「夢や目標を持っている」については73%と昨年と変わらなかったが、府平均を3%上回っている。 (健やかな体) 男子の握力では全国平均を上回ったが、他の種目では下回っている。他の筋力や敏捷性も弱く、継続的な筋力トレーニングや持久力向上に向けた取り組みが必要と考えられる。 体育の授業には男女を問わず積極的に参加しており、加えて男子生徒の部活動への入部率も高い。</p>
--	---

大項目	中項目	具体目標	具体的な取組 (●重点とする取組)	判断基準 (評価のものさし)	評価方法	評価時期	進捗確認 (～8月)	達成状況(年度末)	
								自己評価	学校関係者評価
確かな学び	授業の工夫改善	生徒が主体的・対話的な深い学びに向かう授業を推進し、『わかる授業』の追求をし、生徒の学力を向上させる	・研究授業や研修、タブレット活用により指導技術の向上を図る。 ●学期に1回は「指導案作成研修」を実施する。	「授業はわかりやすい」と肯定する生徒の割合を昨年度、一昨年度と比較する	学校教育アンケート	3学期			
			少人数授業や習熟度別学習、主体的・対話的な深い学びを推進し、生徒の言語活動の充実を図る。	「少人数授業やTT授業はわかりやすい」と肯定する生徒の割合を昨年度、一昨年度と比較する	学校教育アンケート	3学期			
	家庭学習の定着	家庭での学習習慣を定着させる	●「しるし検定」の活用や「ウチ 学(家庭学習週間)」の定着を図り、自ら学習する習慣をつけさせる。 ●小中一貫教育のさらなる推進のため、小学校と連携した「ノート指導」を行う。	「家庭での学習時間が増えた」と肯定する生徒の割合を昨年度、一昨年度と比較する	学校教育アンケート	3学期			
豊かな心・健やかな体	社会性の向上	社会のルールを守る態度を育成する	あいさつを奨励し、社会性を身につけるさせる。	「よくあいさつをしている」と肯定する生徒の割合を昨年度、一昨年度と比較する	学校教育アンケート	3学期			
			物事の善悪を理解し、社会のルールを守る態度を育成する。	「先生はじめや問題行動に真剣に対応している」と肯定する保護者の割合を昨年度、一昨年度と比較する	学校教育アンケート	3学期			
	生徒活動の充実	・主体的な生徒活動の実践を図る ・浜中ファームの充実	生徒の自主活動を高め、学校生活を充実させる。	「生徒会活動や委員会活動、部活動ががんばっている」と肯定する生徒の割合を昨年度、一昨年度と比較する	学校教育アンケート	3学期			
●清掃活動やボランティア活動(浜中ファーム)を充実させる。			「学校をきれいにしよう、清掃活動等をがんばっている」と肯定する生徒の割合を昨年度、一昨年度と比較する	学校教育アンケート	3学期				
開かれた学校	HPの充実	学校の情報を適切に公開し信頼される学校づくりをめざす	適切な情報を日々発信し、アクセス数を増加させる	アクセス数を昨年度(110万件)、一昨年度(90万件)と比較する	学校教育アンケート アクセス数	3学期			

校長より(年度末)	学校関係者評価者から(年度末)
-----------	-----------------